



れんげ畑

～ 結の学校～

8・9月号

成長の学期スタート

校長 永塚 壽一

まだまだ残暑の厳しい日が続いておりますが、空の色や雲の形、夕暮れ時の風に秋の気配を感じることも多くなってきました。

今年の夏は、新型コロナウイルスの感染が広がるとともに、各地で災害が続いた夏休みでしたが、子どもたちにとって、よい夏休みになったことを願います。

長い休み、感染防止・熱中症予防等と、保護者の皆様におかれましては、ご苦労が多かったことと推察します。



2学期、学校では様々な行事を計画しております。仲間と力を合わせて行う学校行事は子どもたち相互の絆を深め、心身ともに大きく成長させるとともに、中央っ子としての自覚やプライドをはぐくんでいきます。「結の学校」と銘打った今年度の大きな山場ともなる学期です。コロナの感染状況等を見極めながら、一つ一つの行事を大切に実施していこうと考えております。感染状況によっては、直前に内容や期日を変更するようなこともあるかもしれませんが、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

9月には、防災の日や十五夜などがあります。

防災の日は9月1日。この日は関東大震災が発生した日であるとともに、台風シーズンを迎える時期でもあります。昭和34(1959)年には、「伊勢湾台風」によって戦後最大の被害を受けました。これらのことを契機とし、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、「防災の日」が創設されました。また、1日を含む一週間が防災週間とされております。



近年では、南海トラフ地震や首都直下型地震なども危惧されているため、本校でも、「自分の身は自分で守る」力や「助け合う力」を中央っ子に身につけよう地震発生時の訓練を実施していきます。ご家庭におかれましても、万が一の時、どう行動するか話し合ってください。



今年の十五夜は9月10日(土)。別名「中秋の名月」とも呼ばれます。

この頃は大気が澄んで月が美しく見えるため、中国では唐代の頃から「中秋節」という観月の宴を催していました。日本には平安時代に伝わり、十五夜を鑑賞するようになりました。

江戸時代にはこの風習が作物の収穫祭と結びついて民衆にも広まり、豊かな実りの象徴として十五夜(中秋の名月)を鑑賞して、お供え物をして感謝や今後の豊作を祈ったそうです。

中央っ子の一人一人が、2学期の教育活動を通して、大きな十五夜のような成長を遂げられるよう学校全体で指導・支援してまいります。2学期も保護者・地域の皆様のご協力をお願いします。